

「机付き、座り心地よし」

文化芸大生設計 観戦ベンチ完成



浜松市中区の静岡文化芸術大の学生が設計した引佐南部中学校（北区引佐町）グラウンドの観戦用のベンチが完成し、寄贈式が十一日、同校であった。作り付けの机もあり、デザインした学生は「人々の憩いの場としても使ってほしい」と話した。（高橋貴仁）

引佐南部中で寄贈式

グラウンドのバックネット裏に設けられたベンチを設計したのは、同大デザイン学部の深谷志乃さん（三年）と佐竹竜祐さん（二年）、成瀬史一さんと有効活用されることを期待した。

幅四・六メートルある木製の三列構造。一番前はシンプルなベンチで、二列目には机を取り付けた。三列目には立ち見のための土台があり、それぞれ横に十人

ベンチのデザインについて野球部員に説明する学生ら（左側）＝浜松市北区で

並んで利用できる。二セットあり、最大で六十人が観戦ができる。色は野球部のチームカラーである紺とオレンジを使用した。

同校野球部の影山泰吾主将（二年）は「机があつて、お弁当を食べるときにも便利そう。座り心地も良い」とうれしそう。深谷さんは「地域に愛されるデザインを意識しました」。

ベンチの建て替えは、同大デザイン学部の学生でつくる団体「BASE」と、仲間建築（北区）、プロパンガス販売のエネジ（中区）などで構成する「はままつ応援隊」が共同企画した。学生が昨年九月からデザインを考案し、はままつ応援隊がベンチを造った。